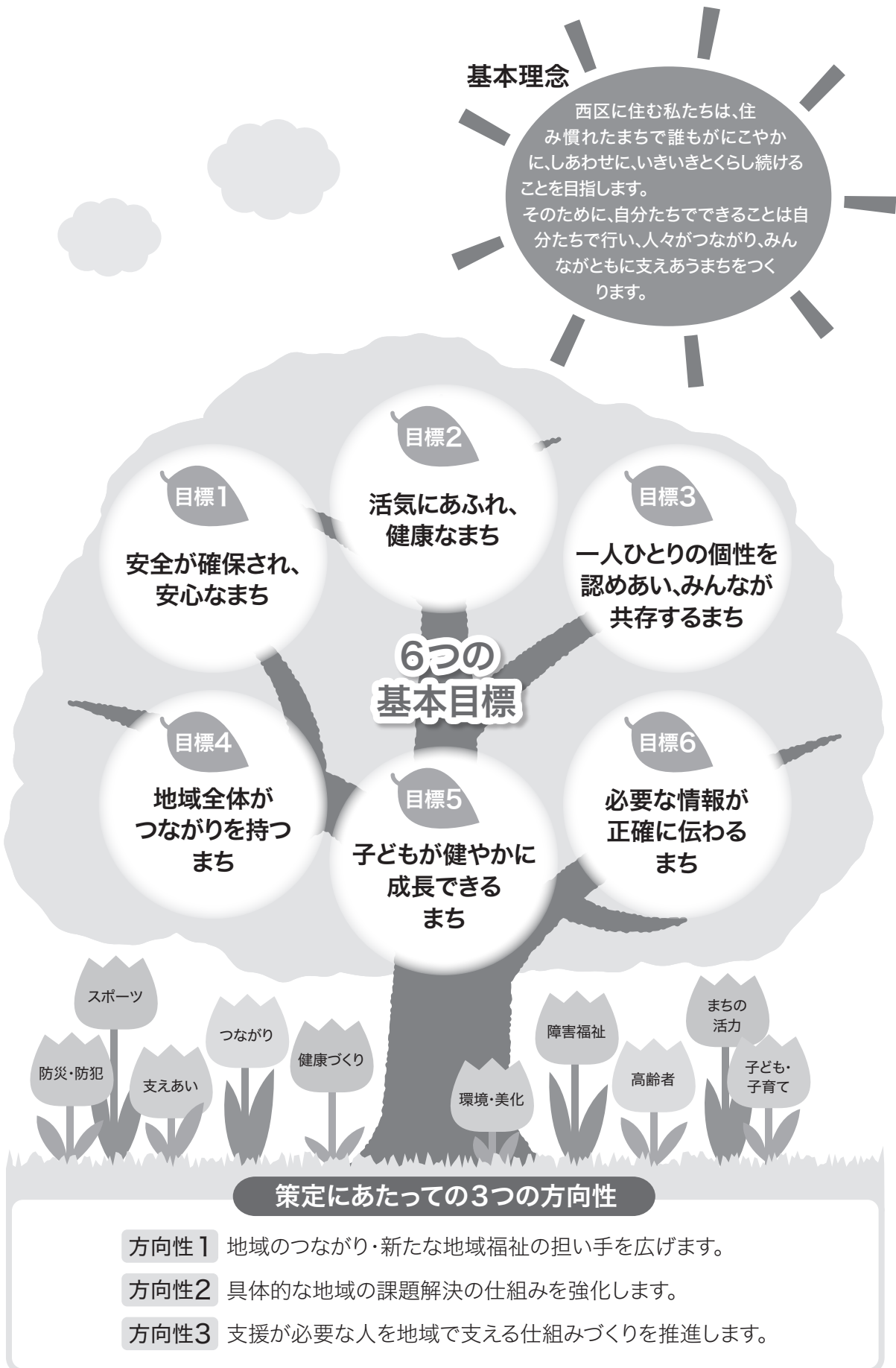


区全体計画

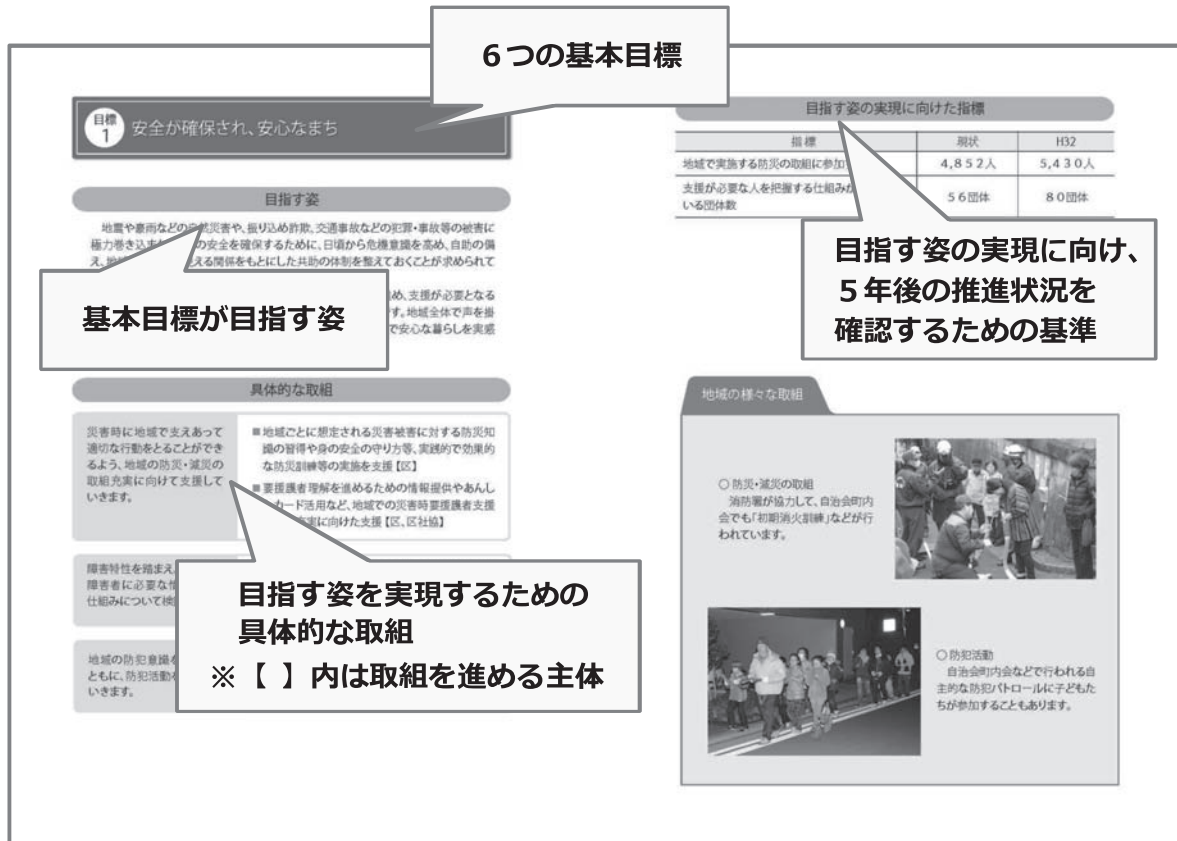
3 区全体計画



区全体計画は、地区別計画や地域活動を支援する取組に加え、区全体に共通する課題の解決に向けて取り組んでいく計画です。

6つの基本目標別に、「目指す姿」とその実現に向けての「具体的な取組」、計画期間中（5年後）の推進状況を確認するための「指標」を定め、様々な取組を進めていきます。

【次ページ以降の見方】



<42 ページから 54 ページ文中>

※【区】は西区役所、【区社協】は西区社会福祉協議会、【ケアプラザ】は地域ケアプラザを指します。

※次のマークが付いている取組は、「にこまち トライ プロジェクト(NTP)」(10 ページ参照)として位置づけ、推進していきます。



にこまち助成金(区社協)のキャラクター「ニシ・ニコ・マッチ氏」マーク

目標
1

安全が確保され、安心なまち

目指す姿

地震や豪雨などの自然災害や、振り込め詐欺、交通事故などの犯罪・事故等の被害に極力巻き込まれず、身の安全を確保するために、日頃から危機意識を高め、自助の備え、地域の中で顔の見える関係をもとにした共助の体制を整えておくことが求められています。

そのためには、自助・共助を基本とした防災・減災の取組を進め、支援が必要となる人を把握したり、情報を届ける仕組みづくりを行うことが大切です。地域全体で声を掛けあい、助けあう関係をつくり、日々の備えを進めることで、安全で安心な暮らしを実感できるまちを目指します。

具体的な取組

災害時に地域で支えあって適切な行動をとることができるよう、地域の防災・減災の取組充実に向けて支援していきます。

- 地域ごとに想定される災害被害に対する防災知識の習得や身の安全の守り方等、実践的で効果的な防災訓練等の実施を支援【区】
- 要援護者理解を進めるための情報提供やあんしんカード活用など、地域での災害時要援護者支援の取組充実に向けた支援【区、区社協】

障害特性を踏まえ、災害時に障害者に必要な情報が届く仕組みについて検討します。

- 災害時に障害児・者に必要な情報が届くよう、情報拠点の設置や伝達の仕組みなどについて検討【区、区社協】

地域の防犯意識を高めるとともに、防犯活動を支援していきます。

- 地域防犯への関心を高めるイベントや講座の開催、支援のほか、自主防犯団体の活動支援【区】

目指す姿の実現に向けた指標

指標	現状	H32
地域で実施する防災の取組に参加する人	4,852人	5,430人
支援が必要な人を把握する仕組みが構築されている団体数	56団体	80団体

地域の様々な取組

○ 防災・減災の取組

消防署が協力して、自治会町内会でも「初期消火訓練」などが行われています。



○ 防犯活動

自治会町内会などで行われる自主的な防犯パトロールに子どもたちが参加することもあります。

目標
2

活気にあふれ、健康なまち

目指す姿

健康について一人ひとりが考え、気を付けていくことはもちろん、さらに身近な地域においても、各世代に合わせた健康づくり、生活習慣病や介護の予防に取り組み、地域全体で健康寿命を延ばすことが必要です。

また特に、増えていくシニア世代が様々な健康づくり活動に参加したり、得意分野を生かして積極的に地域活動へ関わることも大切です。

誰もがいつまでも自分らしくいきいきと暮らし続けることのできるまちを目指します。

具体的な取組

地域で健康づくりに携わる団体・グループの担い手を増やし、支援していきます。

- 保健活動推進員や食生活等改善推進員（愛称：ヘルスマイト）などと協力しながら、地域で健康づくりを進める担い手を増やすための講座の開催や活動支援【区】

気軽に参加できる健康づくり事業や健康に関する情報を提供していきます。

- 働き・子育て世代も含め、誰もが情報収集しやすいよう、健康に関する情報をインターネットにより発信する「健康づくりポータルサイト」の充実【区】

身近な地域で介護予防に取り組む人材や場所を増やします。

- 地域の介護予防活動を推進する「げんき活動応援団」の充実、シルバー体操指導員による「ころばんよ体操」の普及・啓発【区、ケアプラザ】
- 「元気づくりステーション」などを通じた場づくり、仲間づくりの支援【区、ケアプラザ】

シニア世代が生きがいや地域での役割を持つことができるよう、社会参加に結びつくきっかけや場を提供していきます。



- シニア世代が地域活動に参加するきっかけとなるような新たな場を検討、実施【区社協、ケアプラザ】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、幅広い世代が身近な場所でスポーツに親しめる機会を増やします。

- 中学校でオリンピック・パラリンピック競技大会の競技種目選手によるスポーツ「体験会」実施、ランニング教室やスポーツに関する講演会開催【区】
- ウォーキングイベントや子どもサッカースクールの開催支援【区、ケアプラザ】

目指す姿の実現に向けた指標

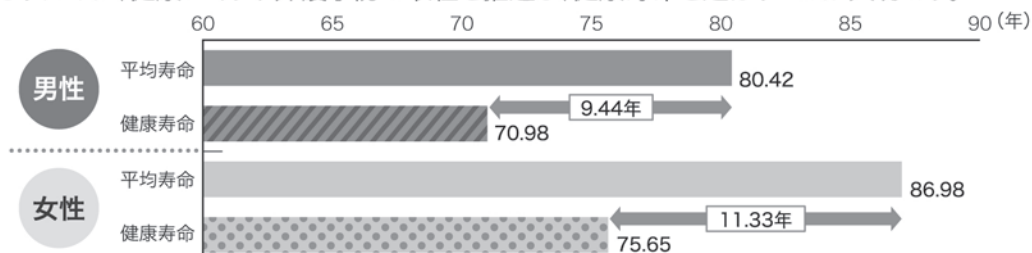
指標	現状	H32
健康に関心があり、健康づくりに取り組んだ人数	12,598人	14,000人
シニア世代が地域活動に関わるきっかけとなるような新たな場の提供	検討	実施

参考

横浜市の平均寿命と健康寿命の差

健康寿命は「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことで、0歳児がこれからどれくらい健康でいるかを表します。一方、平均寿命は0歳の平均余命（その年齢の人が平均してあと何年生きるかという期待値）を表しています。

平成22年の横浜市の平均寿命と健康寿命の差は、男性9.44年、女性11.33年であり、この間、日常生活に制限のある状態で過ごすことを意味しています。いつまでも健康でいきいきと暮らすために、健康づくりや介護予防の取組を推進し、健康寿命を延ばすことが大切です。



*「国民生活基礎調査」<横浜市分>(平成22年)を基礎データとし算出

目標
3

一人ひとりの個性を認めあい、みんなが共存するまち

目指す姿

地域には、障害児・者や認知症高齢者など、サポートを必要とする様々な人が暮らしています。これらの人たちが地域の中で自分らしく暮らすためには、周りの人が障害や認知症等に対する理解を深め、地域の中で当たり前のこととして受け入れることが必要です。また一方、障害のある人なども、自分の気持ちや状況を周囲に伝え、地域の一員としてできることを進んで行うなど、自ら顔の見える関係を築いていくことも大切です。

誰もが互いに認めあい、ともに暮らすまちを目指します。

具体的な取組

身近な地域でサポートの必要な人の生活の様子を知り、理解を深めます。

- 子どもの頃から障害に対する理解を深めるため、障害のあるなしに関わらず、子どもや保護者が交流できる機会を検討【区、区社協】
- 認知症サポーター養成講座の開催とキャラバン・メイト増員の働きかけ【区、区社協、ケアプラザ】

障害などのあるなしに関わらず、誰もが気軽に参加できる行事・場が地域で実施されるよう、情報提供・共有を進めます。



- 障害や認知症等の特性について、広報やイベント、啓発講演会などを通じて広く周知【区、区社協】
- 日常生活の中で、障害児・者、認知症高齢者等が地域の方々と出会い、交流するきっかけや場の創出【区、区社協、ケアプラザ】

地域の防災訓練に住民の一人として障害児・者が参加するとともに、災害時の備えについての意識を高められるよう取組を進めます。

- 障害児・者とその家族が、いざという時の備えについて、地域や施設、団体と連携して考える機会の創出や、顔の見える関係をつくる取組への支援【区、区社協、ケアプラザ】
- 地域の防災訓練等で障害児・者対応について検討するきっかけとしてもらえるよう、自主防災組織に障害特性などの情報を提供【区】

目指す姿の実現に向けた指標

指標	現状	H32
障害や認知症を理解するための普及・啓発講座等に参加した人数	8,303人	16,000人
障害児・者やその家族が参画する出会いの場の創出	検討	実施

地域の様々な取組



○ 誰もが気軽に参加できる場づくり

認知症の人やその家族、地域の人など、誰でも気軽に立ち寄ることができる集いの場として、認知症カフェ「わたぼうしカフェ」が開催されています。

(第2土曜日、会場はにしとも広場)

○ 障害理解啓発の活動

地域防災拠点の防災訓練で行われた障害理解の取組では、コミュニケーションボードの利用方法を寸劇で説明。



目標 4

地域全体がつながりを持つまち

目指す姿

高齢化が急速に進む中、高齢者が最後まで住み慣れた地域で暮らしていくことを支えるため、「地域包括ケアシステム(※)」の構築が求められています。

そのために、身近な地域の見守り活動などを担う団体やボランティア・市民活動等のグループの活動を支える担い手の発掘・育成が重要です。

また、新たな人が活動に参加しやすくなる環境づくりに加え、地域の団体、施設、企業などが連携しあうことで、活動を広げ、新たな取組に結びつけていく視点も必要です。

誰もが地域の一員として自分ができる活動を主体的に行い、互いにつながり、支えあうことで、いつまでも暮らしやすく安心なまちを目指します。

※地域包括ケアシステム(再掲)：高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくことを支えるために、医療・介護・住まい・生活支援・介護予防のサービスを切れ目なく提供するための仕組み(※詳細は51ページ参照)

具体的な取組

ボランティア・市民活動等に
参加しやすい環境づくりと取
組の活性化を進めます。



■ 活動の楽しさや必要性を伝える体験イベントや講座の開催【区、区社協、ケアプラザ】



■ ボランティア・市民活動等団体の交流を通じた活動の活性化や新たな取組創出【区、区社協】

地域で高齢者等の見守り活
動を行う団体間の連携を図
り、支援が必要な人を地域で
見守る仕組みづくりを進めま
す。

■ ふれあい会や民生委員・児童委員など見守り活動を行う団体間の連携を推進【区】

■ 徘徊認知症高齢者保護地域支援事業連絡会や初期集中支援チームと連携した支援体制構築など認知症高齢者を地域で見守る仕組みづくりを検討【区、ケアプラザ】

元気な地域コミュニティづく
りを進めるため、新たな地域
活動の展開や担い手の育成
に取り組みます。

■ 新たな地域活動につながるよう、コミュニティビジネスや企業等と地域との連携を検討【区】

■ 「地域活動に関心がある、携わっている」人たちを具体的な活動につなぐ「地域づくり大学校」の実施【区】

- 商店街と地域がともに行う取組を通して、商店街の活性化を進めます。

- 商店街活性化に向けた検討、地域との連携、イベント等によるにぎわいづくり【区】
- 地域ケア会議を充実・活用し、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくことを支えます。

- 地域ケア会議を活用したネットワークの構築と地域課題の共有、解決に向けた検討【区、ケアプラザ】
- 在宅医療相談室を中心に、在宅医療と介護の一体的な提供を目指し、連携を推進します。

- 関係機関の連絡会議の充実や人材育成研修、啓発講演会の実施【区、ケアプラザ】
- 施設や関係機関の連携を促進し、様々な課題を共有し、解決に協力しあう体制づくりを進めます。

- 区民利用施設が情報共有し、連携することで、様々な課題解決を図る「区民利用施設連携会議」の開催、充実【区】
 - 障害、高齢、子どもの拠点施設が連携して、複数分野にわたる課題を抱える人に対応し、課題解決を図るための仕組みの検討【区、区社協、ケアプラザ】
- 周囲からはわかりにくい課題や困難を抱えた若者などに関する、地域での理解を進めます。

- 周囲からはわかりにくい課題や困難を抱えた若者等をテーマにした、地域での研修会、啓発講演会の開催と、その場における情報提供【区】

目指す姿の実現に向けた指標

指 標	現 状	H32
ボランティア・市民活動等の担い手として登録している団体数(各拠点への登録延べ団体数)	263団体	313団体
障害、高齢、子どもの拠点施設が連携して、複数分野にわたる課題解決を図るための仕組みの構築	検討	実施

地域の様々な取組



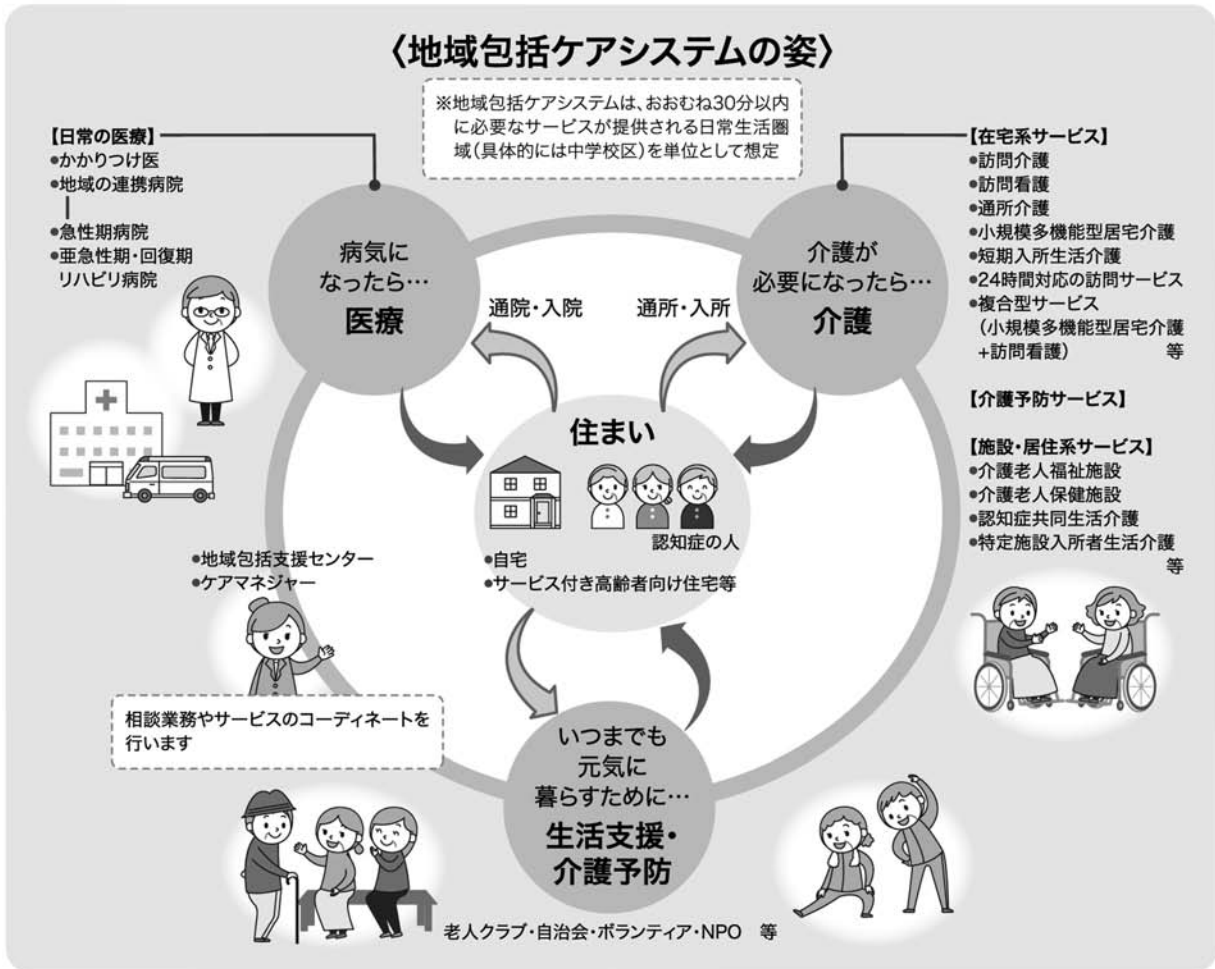
○ ふれあい会による見守り活動

地域のひとり暮らし高齢者等のご自宅へ、見守り、訪問活動をしています。

○ 元気な地域コミュニティづくり

地域活動に関心がある人たちが、先進的な事例の現地見学や参加・体験型の学びあいを通して、地域課題の解決や魅力づくりを進める力を養う「地域づくり大学校」が行われています。





地域包括ケアシステムのイメージ図(厚生労働省web ページ参考)

西区でも団塊の世代が75歳となる2025年(平成37年)には、高齢化率が21%(5人に1人が高齢者)となることが予測されています。それまでの間に、住み慣れた地域で、自分らしくいきいきと暮らし続けることができるよう、医療、介護、住まい、生活支援・介護予防を切れ目なく提供する体制(地域包括ケアシステム)をつくる必要があります。

地域包括ケアシステムの構築は、行政や医療、福祉の関係者だけが行うものではなく、地域の皆さん一人ひとりが健康づくりや介護予防などに取り組み、地域活動やボランティア・市民活動などへの参加を通じて、互いに支えあう地域をつくるのが大切です。

これは、「にこまちプラン」の基本理念そのものであり、その推進が地域包括ケアシステムの構築、推進につながります。

これまでの地域での顔の見える関係づくりや、さまざまな活動を大切に、自分たちの地域を暮らしやすいまちにしていきましょう。

目標
5

子どもが健やかに成長できるまち

目指す姿

家族のあり方が多様化する中、乳幼児期を中心に、身近な地域で親子が集い、相談できる場所を広げ、地域と関わる場づくりを進めてきました。

今後は、学齢期の子どもを取り巻く課題を把握するとともに、それらを理解し、受け止めることのできる地域づくりに取り組んでいきます。その上で地域、学校、区役所、関係機関等が連携するなど、妊娠期から学齢期まで切れ目のない子育て支援を進めます。

誰もが地域の子どもや子育て中の親に関心や関わりを持ち、また、親自身も子どもが幼い頃から地域との関わり方を学ぶことが大切です。家庭・地域・学校などが一体となって子どもを見守り、子どもたちが心豊かで健やかに成長できるまちを目指します。

具体的な取組

妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援が行われるよう、関係機関のネットワークづくりを進めます。

- 子育て関連施設連絡会の開催や子育て支援機関、学校との連携会議の充実、支援者向け研修会の開催【区、区社協】

身近で親子が集える場を充実するとともに、学齢期の子どもたちが地域で安心して過ごせる居場所づくりについて、検討します。



- 地域子育て支援拠点事業の充実、子育てサロン・親子ふれあい会・親と子のつどいの広場事業運営支援、保育所等の地域向け事業支援【区】
- 学齢期の子どもたちが地域と関わる居場所の検討【区、区社協】

子どもたちが自分の住むまちとのつながりや自身の役割を考えるきっかけとなるような取組を検討、実施します。

- 地域活動、福祉活動の体験イベントの実施や、子どもたちが自分のまちについて話し合う場の検討【区、区社協】

地域子育て支援拠点を中心に子育て支援の場や機能、関連イベントなどの情報を収集し、様々な方法で発信していきます。

- インターネット、情報誌、子育て支援マップなどを活用した地域の子育て関連情報の発信【区】

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」に基づき、読書活動を推進し、子どもから大人まで身近な場所で読書に親しめるような機会を提供します。

- 中央図書館と連携した読書活動推進のための講演会の開催、図書館、学校、区内施設等と連携した読み聞かせボランティア講座等の開催【区】

目指す姿の実現に向けた指標

指標	現状	H32
子育て関連施設、学校が連携して、子どもの成長を見守る関係づくり	実施	推進
子どもたちが地域と関わる居場所づくり	検討	実施

地域の様々な取組

にこやかに 目をかけ
手をかけ 心かけ

西区子育て関連施設連絡会



○ 関係機関の連携

区内保育施設間の連携を深めるための「西区子育て関連施設連絡会」で、平成27年に作成したキャッチフレーズとデザインマーク。子育てをする上で大切にしたいことをわかりやすく示しました。

○ 切れ目のない子育て支援に向けて

乳幼児から学齢期まで、障害の有無に関わらず、保育所、幼稚園、小学校、学童保育、地域が連携を深め、一人ひとりの育ちを見守り、一貫した子育てができるよう支援しています。
(写真は子ども子育て支援複合施設「なかまの杜」の交流の様子)



目標
6

必要な情報が正確に伝わるまち

目指す姿

様々な媒体で多くの情報が発信されていますが、必要な人に必要な情報が十分に届いていない状況があります。情報の整理を行うとともに、地域や対象者の特性に応じた発信等の工夫が必要です。

誰もが必要な情報を手軽に入手し、活用することができるまちを目指します。

具体的な取組

幅広い地域情報を集約・発信し、誰もが手軽に必要な情報を手に入れられる場づくりを進めます。

- 区内で活動しているボランティア団体等を掲載するポータルサイト「にしとも広場」の充実【区】
- ボランティアセンターの情報整理・発信の充実【区社協】
- 地域ケアプラザ間で、地域の活動団体等の情報を共有、発信【ケアプラザ】

地域独自の情報発信や情報関連のボランティア活動を支援します。

- 地域独自のきめ細かな情報収集・発信の取組、情報関連のボランティア団体や情報端末操作講習などの活動を支援【区、区社協、ケアプラザ】

対象者を想定しながら様々な媒体、表現等を工夫して発信します。

- 回覧版、掲示板、紙媒体、インターネット、SNS等、それぞれの特徴を生かした情報発信や誰もがわかりやすい「やさしい日本語」などを活用した取組【区】

目指す姿の実現に向けた指標

指標	現状	H32
必要な情報を入手できる場づくり	検討・実施	推進